

令和3年度第2回伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時 令和3年12月9日

午前10時開会 午前11時閉会

場所 伏見区役所1階ホール

1 議題

- (1) 『伏見区基本計画2025』の策定について
- (2) 令和3年度の伏見区役所の取組状況について
 - ア 三所共同事業について（伏見区区民活動支援事業，伏見連続講座）
 - イ 区役所・支所の主な取組（伏見区役所，深草支所，醍醐支所）

2 発言要旨

伏見区長から開会のあいさつ

- ・ 座長の橋爪先生，副座長の村井会長をはじめ，各分野，地域で活躍されている委員の皆様には，日頃から地域のまちづくりリーダーとして，ご尽力いただくとともに，広く伏見区政，京都市政の推進に御協力賜っており，厚く御礼申し上げます。
- ・ 前回の会議は，6月に予定していたが，新型コロナウイルスの感染拡大により，残念ながら書面開催となってしまった。対面での区民会議をするのはほぼ1年ぶりである。
- ・ この間，ワクチン接種や感染拡大防止対策などで，非常にご理解・ご協力いただき，感謝申し上げます。京都市内のワクチン接種率は，12才以上の人口の約8割まできており，現在，感染者は少なく推移しているが，第6波やオミクロン株等に向けた備えは重要である。一方で地域活動，経済活動も再始動しつつある。
- ・ 若者などへのワクチン接種率のさらなる向上や，3回目の接種なども進めていく必要があり，引き続き，皆様のご協力をいただければありがたい。
- ・ 今年策定した伏見区基本計画2025は，この2年間の皆さま方の熱心なご議論の成果であり，地域力，福祉力のあるまちづくりとなるよう策定した。
- ・ 計画初年度である今年度は伏見区誕生90周年でもあり，次の伏見100年に向けて，これからいかに計画に掲げたことを進めていけるかが非常に大切である。
- ・ 区役所としても，荒木深草担当区長，村中醍醐担当区長とともに区役所，支所職員一丸となって，安心安全な魅力あふれる伏見のまちづくりに全力で取り組んで参るので，皆様方の引き続きのご理解，ご協力をお願い申し上げます。

橋爪座長から開会のあいさつ

- ・ 顔を合わせての開催は，一年ぶりの開催となった。コロナ感染症の拡大で開催できなかったが，緊急事態宣言も終わり，第6波の不安もあるが今回開催できてなによりである。新しく委員になられた方，よろしくお願いたします。
- ・ これまで伏見区基本計画策定に向けて議論をしてきた。令和元年度から取り組み始め，パブコメを経て本年度の策定となった。ただ計画期間が2021年度から始まり，2025年度が最終年度である。中長期を視野に入れたものというより，足元を考えていく計画になる。コロナの影響などで変更せざるを得ないことも出てくるが，状況を見守りながらできるだけ柔軟に対応していきたい。
- ・ 今後，インバウンドでの外国人観光客がいつ戻ってくるかわからない。状況が改善される

まで事業を継続しながら、これまでオーバーツーリズムの問題もあったが、伏見ににぎわいが戻るようにしていければと思う。

- ・ 伏見港がみなとオアシスに指定された。日本で初めての内陸河川の港湾での指定であり、伏見の新しい顔になると思われる。こうした動きをもとに、将来に希望をもって取り組んでいきたい。

意見交換（三所共同事業 支援事業について）

加藤委員

- ・ コロナ禍のなか、思ったより多くの応募があった。これまでの活動を発展させたものもあったが、新たなものもあった。

春日野学区あいさつ通り推進事業（重点支援事業）

- ・ 今日、地域住民の孤立・分断化・無縁化が進んでいる状況の中、派手さはないが事業への参加のハードルを低くして、つながりづくりのきっかけをつくるという点は、大事なアプローチ。この点を審査委員の皆さんが評価された。

障がいインクルーシブなワークショップ（重点支援事業）

- ・ 今 SDGs が注目されているが、環境・人権・平和など多くのゴールがつながっている。この中でインクルージョンという言葉が多く出てくる。そこでは違いを活かしあうことが重要になり、障がいを持った方がサービスの受け手だけでなく、ともに動く、提供する側になる等、多様な関わり方やお互いの活かし方を見つけていくことが重要。これは多文化共生に関しても言える。

地域と親子をつなごう（小規模枠）

- ・ 多世代交流、子育てという課題が上がっている。地域づくりは人づくり、地域力は人間力であり、子育ても親育ても難しい状況にある。親を元気にして子育てをサポートする、多世代交流の次の発展に向けても大事な活動を展開してもらいたいので、関係部署のサポートもお願いしたい。
- ・ コロナ禍で活動が制限されている中、熱心に地道な活動が進められていることについて、審査委員は評価していた。

橋爪先生

- ・ 区民活動支援事業は、区民会議の中で立ち上げられ、継続してきた。立ち上げ当初より活動内容の幅も広がり、テーマも多様になっている。地域の活動と区役所の連携など、ネットワークができていることを実感しているので、ぜひ継続してほしい。

三木委員

- ・ コロナ禍においても申請事業数は、他区と比べて伏見区は多い。ただ、過去の件数と比べるとやはり伏見区内でも申請数は減っている。
- ・ 一方で、活動を止める、継続していくことが難しい状況にある団体もある。伏見いきいき市民活動センターにもそのような相談が寄せられている。市民活動だけでなく自治会活動なども、同様の難しい状況にあり、相談が寄せられている。
- ・ これからどう盛り上げていくのか、リスタートに向けて取り組まなければならないと思うとともに、それに向けた支援もしていかなければならない。
- ・ 伏見港の取組なども、伏見の区民力が問われるものなので、ぜひ協力していきたい。

橋爪座長

- ・ コロナ禍での活動への支援、その後のリスタートやスタートアップへの支援などがあると思うが、ぜひよろしくをお願いしたい。

高橋委員

- ・ 区民活動支援事業の審査委員をしている。小規模枠の審査の中で関わったことがない団体があり、どのような活動をされているのか訪問したところ、とても活発に活動されていた。ぜひこれからも応援していきたい。
- ・ 子育て世帯に対して、地域団体への参画を呼び掛けるのはハードルがあると感じ、まずは、自分が持っている様々な知識や情報を提供してつながりを作っていくことが大事なのではないかと感じている。

意見交換（区役所・支所の取組について）

加藤委員

- ・ 様々な世代の子どもたちへの関わりがしっかりできているが、年代に合わせた取組、系統だった組み立ても今後、考えてもらいたい。
- ・ サービスラーニング、地域の人と一緒に活動することで得られるもの、親世代への波及効果なども見据えて取り組んでももらいたい。

山本区長

- ・ 地域づくりは人づくりという視点をもとに、人材育成という観点から子どもを支えていくという取組に力を入れている。系統だった事業の構成などを考えるにあたり、子どもたちが成長してから効果が出てくるような、年代に合わせた取組をしていければと考えている。
- ・ 地域社会と子ども達のつながりを今後作っていきたい。これはという取組などあれば、ぜひ事例を紹介していただければと思う。多くの情報を得て、参考にしながら取組を考えていきたい。

矢野委員

- ・ 先日の伏見港でのイベントは、とても盛り上がっていて良かった。もっと多くの人に知ってもらいたい。
- ・ 今後は、さらなる情報発信を行うとともに、地域の人に関わるきっかけを作ってもらいたい。

橋爪座長

- ・ みなとオアシスの取組は、次年度以降もつづく事業なので、今後に向けた告知など工夫して取り組んでももらいたい。

畑中委員

- ・ 醍醐地域の春日野学区で副会長している。区民活動支援事業である「春日野学区あいさつ通り推進事業」で11月3日に啓発パレードを実施した。その事業に、主にビジュアル面に関わった。PRを目的に、メッセージを込めた缶バッジを作ったので、ぜひ参考に見ていただき、お持ち帰りいただければと考え、持参してきた。

村井副座長から閉会のあいさつ

- ・ 本日は師走のお忙しい中、橋爪座長をはじめ、委員の皆様方には、会議にお越しいただき、また、熱心にご議論いただき、誠にありがたい。
- ・ 今年8月に新たな伏見区基本計画が策定されて初めての区民会議であった。区役所の取組状況の説明と、それに対して種々有意義な質疑やご意見があり、新たな良いスタートが切れたと感じている。
- ・ これからの伏見のまちづくりにおいて、本日お集りの皆様の活動が大変大事である。コロナ禍における活動方法など、悩み、模索しながらにはなるが、委員の皆様や行政と情報共有しながら、「伏見に住んでいてよかった」と思えるまちづくりとなるよう、進めていければと思う。

橋爪座長

- ・ 次回開催は、来年5月の予定。
- ・ 伏見港のみなとオアシスのこれからの取組、長年の課題である大岩街道の構想など、注目していきたい。
- ・ 地域ぐるみの子育てなども継続して意見交換できればと思うので、ぜひよろしくお願いします。